



養蚕で発達した三階建養蚕農家住宅〈山村・養蚕集落〉

養父市大屋町大杉地区

国選定 重要伝統的建造物群保存地区





〈伝統的建造物の意匠〉



掃出し窓と梁小口



鏝絵(恵比須)



大壁造(柱が見えない)

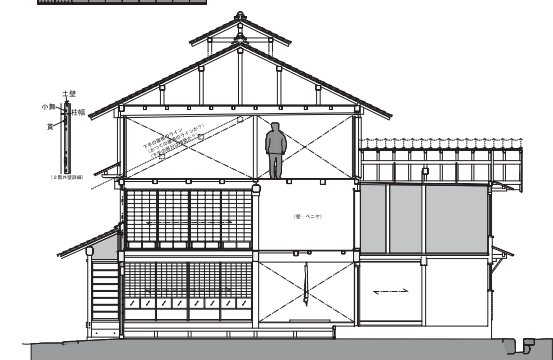
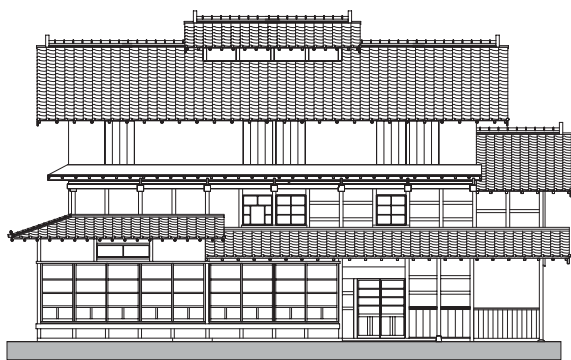


真壁造(柱が見える)

大屋の養蚕農家住宅は、二階建または三階建て、切妻造の屋根をもつ椽瓦葺の建物です。大杉地区には、三階建の養蚕農家住宅が12棟あります。その内の10棟が、二階建を棟上げ(増築)した三階建てです。江戸後期に建てられた二階建の茅葺住宅を、明治後期以降に蚕室とするため三階を増築したものです。一方、2棟は大正期頃に三階建として新築されています。

蚕室となった二階と三階の階高(天井高)は約220cmでほぼ同じ高さです。屋根には抜気と呼ぶ換気装置を設け、四面の壁に窓を配置して通気性を高めています。窓は蚕室の床面まで窓枠を下げた長方形の「掃出し窓」です。二階と三階の外壁は温度と湿度を管理するため、土で塗り込め、土蔵の壁のような大壁造になっています。

大杉地区はこのような三階建養蚕農家住宅がまわって残り、独特の集落景観を形成しています。



3階建養蚕農家住宅の実測図

①大杉公民館

昭和37年に建築された平屋建の建物です。屋根は石州の赤瓦です。内部にざんざこ踊りの練習場があります。隣接する鉄骨の火の見やぐらが大杉の景観シンボルとなっています。



⑨ふるさと交流の家いろいろ

明治前期の茅葺二階建を三階建に増築した養蚕農家住宅です。簡易宿泊施設です。分散ギャラリー養蚕農家で利用受付をしています。



⑮大福寺

二宮神社の背後に大福寺があります。正面三間、側面三間、屋根は宝形造の観音堂で、宝暦4(1752)年の建築と言われています。この上に妙見堂があります。



⑦分散ギャラリー養蚕農家

江戸後期の茅葺二階建の養蚕農家住宅で、蚕室を拡張するため、大正2年に瓦葺の三階建に改修しました。内部の見学ができます。月曜日休館。入館は無料です。



⑧但馬古民家の宿 大屋大杉

江戸後期に建てられた茅葺二階建を三階建に増築した三階建養蚕農家住宅です。宿泊施設とレストランとして活用されています。



⑳洗い場

奥山谷川の流に沿った住宅の前には川に降りる石段があり、洗い場が作られています。アライトと呼ばれました。野菜などを洗うだけでなく飲料水にも使われました。



⑭二宮神社

8月16日、境内地で大杉ざんざこ踊りが奉納されます。本殿は文政11年(1828年)の建築で中井正貞の彫刻です。拜殿正面の彫刻は中井喜一郎です。境内に秋葉神社、稻荷大明神、愛宕大神、山ノ神等を祀ります。境内の石垣は打込はぎという積み方です。

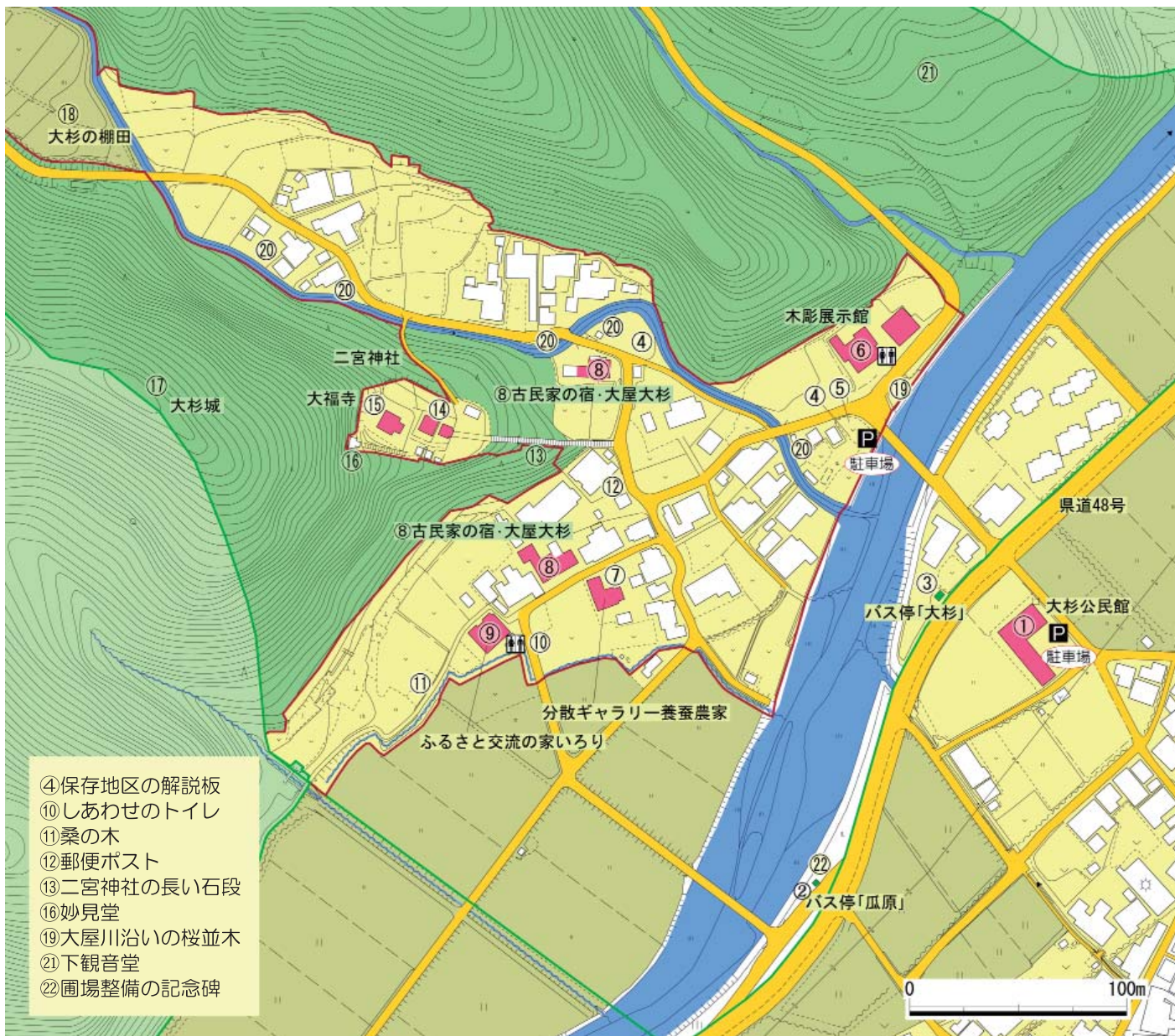


②③バス停の彫刻

大屋は木彫フォークアートのまちです。大屋地域各地のバス停に十二支の干支(えと)の木彫を設置しています。大杉バス停には「寅」、瓜原バス停には「申」の彫刻があります。

⑥市立木彫展示館

旧栢尾医院を改修した木彫の美術館です。市立おおやホールで9月下旬から開催される全国公募展「木彫フォークアートおおや」の歴代の優秀作品を保管し、展示しています。月・火曜日休館、有料です。



- ④保存地区の解説板
- ⑩しあわせのトイレ
- ⑪桑の木
- ⑫郵便ポスト
- ⑬二宮神社の長い石段
- ⑮妙見堂
- ⑯大屋川沿いの桜並木
- ⑰下観音堂
- ⑱圃場整備の記念碑

⑤駐車場の彫刻

大杉地区の見学に利用できる木彫展示館の駐車場です。駐車場の正面には大屋の木彫フォークアートを象徴する2匹のこま犬をあしらったモニュメントがあります。また重要伝統的建造物群保存地区を説明する大型の解説板があります。木彫展示館で見学パンフレットを無料配布しています。



⑰大杉城

東西約150m、南北約80mの規模で城主は不明です。尾根を3本の堀切で切断して主郭を防御し、前方に帯曲輪が取り巻く縄張りです。天正5(1577)年に廃城となりました。二宮神社の場所は城主の館跡と推定されています。

⑱大杉の棚田

奥山谷川の上流、民家が途切れた付近から上流に棚田や畑が広がっています。階段状に続く昔ながらの石垣が農村景観を伝えています。山側には桑畑も作られていました。



重要伝統的建造物群保存地区の概要

養父市大屋町大杉地区は兵庫県の北部にあり、但馬地域屈指の養蚕地帯であった大屋川流域の養蚕集落です。耕地が少ない大屋川流域では、江戸後期に養蚕や家内製糸が盛んになりました。18世紀後半には生糸の品質が向上して丹後ちりめんの原料糸となり、明治期になるといち早く器械製糸場が操業し、海外へ生糸を輸出しました。明治後期から昭和前期に養蚕の最盛期を迎え、この時期に、養父市の養蚕を象徴する三階建養蚕農家住宅が広がりました。

大杉地区は、耕地が少ない山間部という自然環境の中で、養蚕と共に発達した木造三階建の養蚕農家住宅が並び、谷川の水を生活に生かした集落の構成を継承し、社寺建築、石垣、水路等と共に山地の多い但馬地域の歴史的風致をよく伝えていきます。

重要伝統的建造物群保存地区は、大杉集落のうち大屋川左岸に立地する約5.8ヘクタールの範囲です。この範囲を含めた外側には養父市景観形成重点地区の11.1ヘクタールが広がっています。大屋町大杉地区は、国選定を受けた保存地区では全国で4地区目の養蚕集落です。

日本の個性豊かな生活文化を示す景観が、重要伝統的建造物群保存地区として全国各地120地区以上で継承されています。兵庫県では神戸市北野町山本通、篠山市篠山、篠山市福住、豊岡市出石、養父市大屋町大杉、たつの市龍野の合計6地区があります。



■大杉のざんざこ踊り

8月16日に集落の氏神である二宮神社に奉納されます。大団扇を背負った4人の中踊りを約20人の側踊りが取り巻き、囃子に合わせて踊ります。その勇壮さから鬼踊りとも呼ばれ、兵庫県指定文化財になっています。



■木彫フォークアートおおや

9月下旬から10月初旬まで市立おおやホールで約2週間行われる「木彫フォークアート・おおや」には全国から木彫作品が出展されます。木彫展示館の本館には歴代の優秀作品が展示され、体験教室やギャラリーとしても利用されます。



■うちげえのアートおおや

大杉地区では毎年6月後半に大屋地域で活躍する芸術家による合同作品展「うちげえのアートおおや」が開催されます。ふるさと交流の家いろりなど4会場で、木彫・陶芸・絵画・書・家具などのアート作品を展示・販売し、多くの来場者で賑わうアートイベントです。

大杉地区と養父市の養蚕

大杉地区は江戸時代には出石藩に属し、明和8（1771）年の『出石封内明細帳』では、石高141石、家数82軒、人数379人とあり、出石藩から桑代として真綿7kgの小物成が課せられています。

明治時代になると、群馬県高山社の養蚕教師により、新しい養蚕技術や瓦葺の養蚕住宅が全国に普及します。養父郡には明治26年から大正5年までの23年間に、高山社から延73人が派遣されました。

明治後期には養父郡内で25か所の器械製糸場が操業し、大正3（1914）年に郡製糸株式会社八鹿工場及び同養父工場に集約されました。蚕種製造業では、明治25（1892）年に蚕種製造所の豊受社が小城村で操業を開始し、県内最大の施設に発展します。明治中期以降、農家が行う養蚕と企業が行う製糸の分業が進みました。

養蚕教育では、明治30（1897）年に兵庫県蚕業学校が八鹿に創立し、明治40（1907）年に豊受社養蚕伝習所が小城村に開設しました。養父市は近畿地方でも有数の製糸、養蚕地域として発展しました。

三階建養蚕農家住宅は、明治22（1889）年に養父市大谷に建てられ、明治40年代から昭和時代にかけて一般的な住宅建築となりました。平成18（2006）年の調査では市内で495棟が確認されています。

大杉地区では明治後期以降、養蚕業・農業・製炭業・杉苗生産などが営まれました。昭和前期には、大杉橋の右岸に繭の集荷場（現共同作業場の位置）が作られ、郡製糸株式会社養父工場や片倉製糸株式会社和田山工場などに運ばれました。大屋町の養蚕業は平成3（1991）年で終了し、現在は市立上垣守国養蚕記念館が蚕の飼育を伝承しています。

養父市は兵庫県の中で最も養蚕業が盛んであった地域です。集落景観には養蚕を営んだ人々の生活と歴史が刻まれています。



伝統的建造物群保存地区とは

城下町や宿場町などの歴史的な町並みの保存を図る文化財保護法による制度で、市町村が都市計画または条例により伝統的建造物群保存地区を定め、国（文部科学大臣）はその中から価値の高いものを重要伝統的建造物群保存地区に選定します。文化財建造物を「面」として保存する制度で、建築物、工作物、環境物件を特定し、市町村が条例で保存地区の現状変更行為の規制などの措置を定めて保護しています。

重要伝統的建造物群保存地区 養父市大屋町大杉地区

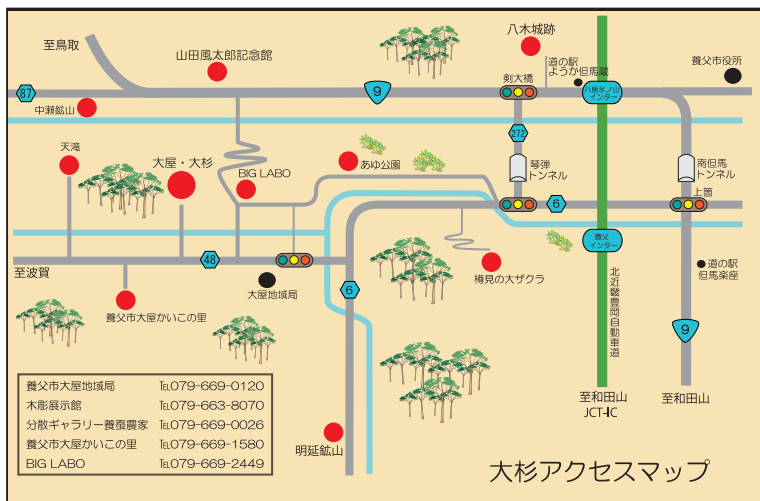
所在地 兵庫県養父市大屋町大杉

面積 約5.8ヘクタール

種類 山村・養蚕集落

選定日 平成29年7月31日国選定

【発行】 養父市教育委員会教育部社会教育課
〒667-0198 兵庫県養父市広谷250-1
TEL 079-664-1628 FAX079-664-1147
E-mail: shakaikyoubu@city.yabu.lg.jp



大杉アクセスマップ